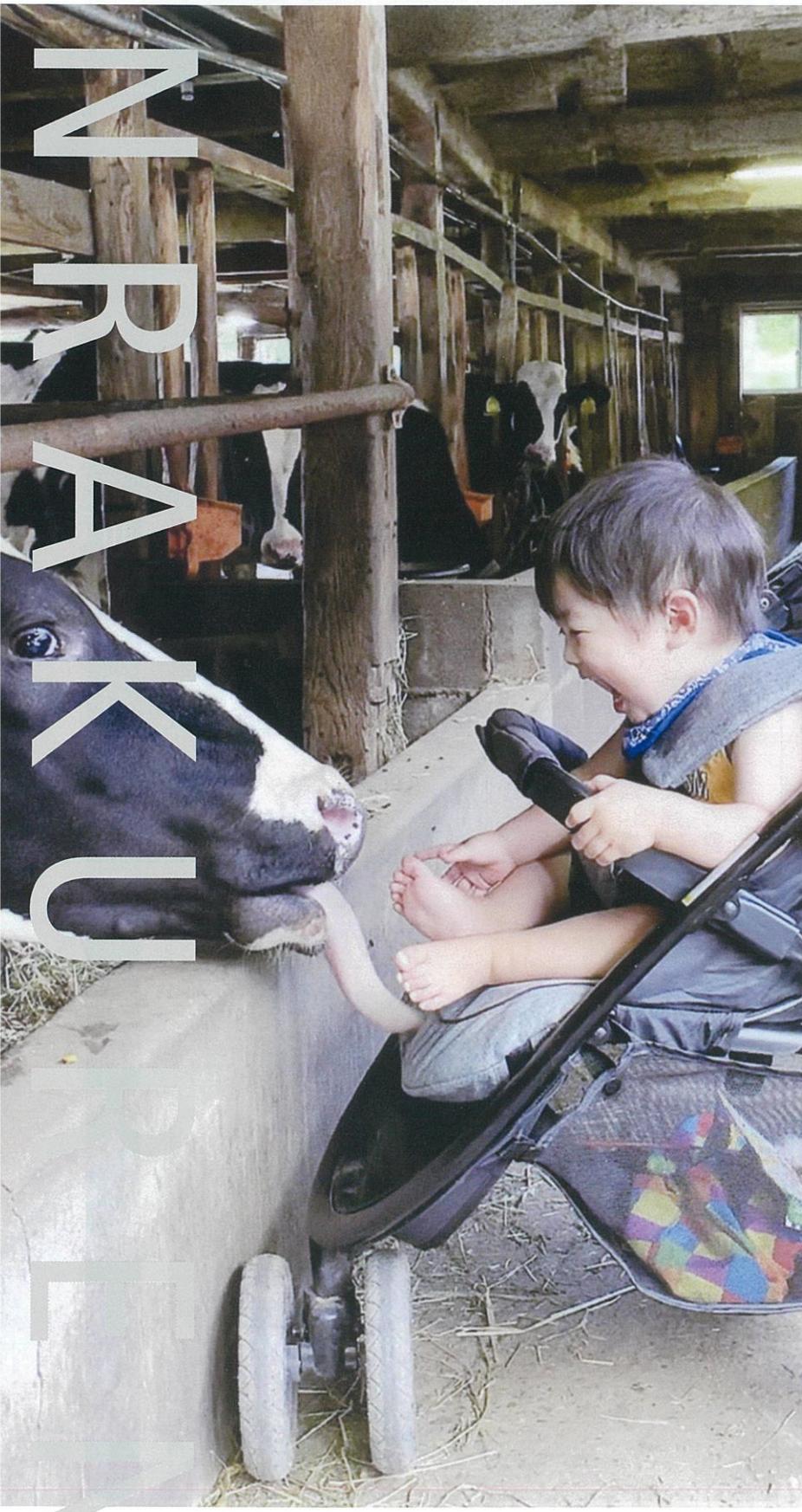


全酪連会報

4

2021 APR No.667



若手後継者の本音／
久保 貴光さん

令和2年度
全酪連監事・役職員研修会

酪農業に対する理解醸成活動報告

第十二次中期 事業計画 案

総務部だより／
「肥料取締法」から
「肥料の品質の確保等に関する法律」へ!
改正の概要と施行のスケジュール!!

新入職員入会式

令和3年度
主な酪農関連対策について
(令和2年度補正予算含む)

日本酪農見て歩紀／
(有)ビッググリーン増幌
(北海道稚内市)

酪農トピックス／
日本酪農政治連盟東北ブロック協議会
「通常総会」・「研修会」・「意見交換会」
開催(仙台)ほか

北関東事務所の
赤城酪連内移転について

カーネルズ
ラインナップ



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/



全国酪農業協同組合連合会

日本酪農見て歴紀

No.
334



▲ 渡辺代表 背景はお孫さんが書いた会社紹介で、お気に入りだそうです

(有)ビッググリーン増幌
北海道稚内市

地域を守る 大規模酪農経営への挑戦

この度訪問させていただいたのは、北海道の最北端 稚内市にあります(有)ビッググリーン増幌です。所属する稚内農業協同組合（板垣和久代表理事組合長）は令和元年度末時点での戸数61戸、出荷乳量2,5,645tとなっています。

また。奥様と2人で当時としては全道トップクラスとなる乳牛総頭数200頭を飼養、年間800tの生乳出荷を行い、牧場の経営は安定していました。その一方で、本地域は高齢化と後継者不足による労働力低下が懸念されていて酪農家の減少とともに地域が衰退していく様子を目

地域への多大な貢献

お話を伺ったのは代表取締役の渡辺義範さんです。(有)ビッググリーン増幌は生乳生産を開始して2年目の新しい牧場です。渡辺代表は(有)稚内グリーンファクトリーの代表取締役も務めており、同社は地元増幌地区を含む稚内市で地域密着しながら各種事業を開拓し多大な貢献をしている企業です。まず、その功績と酪農事業への参入についてご紹介します。

渡辺代表は25年前まで酪農家の2代目として酪農経営を営んでい

ました。奥様と2人で当時としては全道トップクラスとなる乳牛総頭数200頭を飼養、年間800tの生乳出荷を行い、牧場の経営は安定していました。その一方で、本地域は高齢化と後継者不足による労働力低下が懸念されていて酪農家の減少とともに地域が衰退していく様子を目



に至っています。渡辺代表35歳の決断でした。開始した農業コントラクター事業では離農跡地を購入して牧草地に転用することで未耕作地が荒れ果てることを防ぐことができました。さらには、飼料作物を集め約的・効率的に収穫することで、從来のように生産者がバラバラで取り組むよりも個々の負担は軽くなりました。また、農家ニーズに応えるために大型牧草収穫機械を次々と導入し、天候に左右されずに良質粗飼料の確保が出来る体制整備も進めました。それらを中心、農業土木工事、運送事業全般、稚内珪藻土（稚内層珪質頁岩）の販売、冬季の除雪作業等へと事業を拡大し、平成30年には風力発電国内最大手企業との共同出資により、総事業費100億円を投じて自社所有の4,500haの一部に世界最大級の風車10基（30,000kW）を設置しました。風力発電施設を設立。「最北稚内から食糧とエネルギーを全国へ」をモットーに地域への恩返しとして描いてきた夢を実現させました。風力事業への参入を考えたのは、25年前に近隣町の幌延町に核廃棄物関連施設の建設が決定したことで、渡辺代

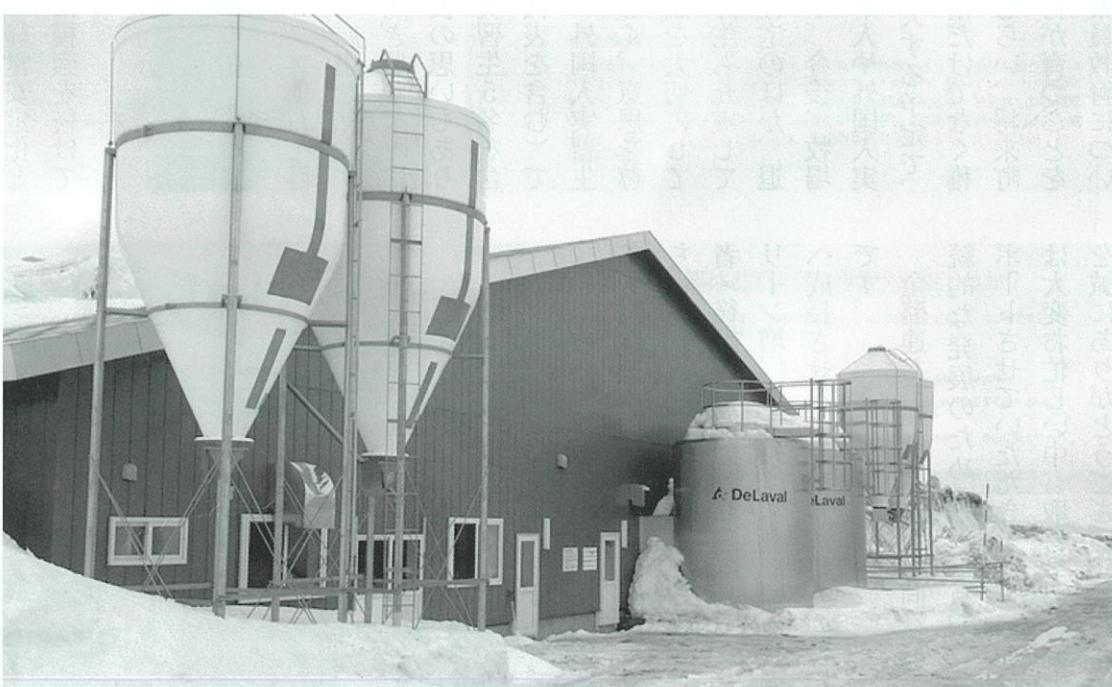
に至っています。渡辺代表35歳の決断でした。開始した農業コントラクター事業では離農跡地を購入して牧草地に転用することで未耕作地が荒れ果てることを防ぐことができました。さらには、飼料作物を集め約的・効率的に収穫することで、從来のように生産者がバラバラで取り組むよりも個々の負担は軽くなりました。また、農家ニーズに応えるために大型牧草収穫機械を次々と導入し、天候に左右されずに良質粗飼料の確保が出来る体制整備も進めました。それらを中心、農業土木工事、運送事業全般、稚内珪藻土（稚内層珪質頁岩）の販売、冬季の除雪作業等へと事業を拡大し、平成30年には風力発電国内最大手企業との共同出資により、総事業費100億円を投じて自社所有の4,500haの一部に世界最大級の風車10基（30,000kW）を設置しました。風力発電施設を設立。「最北稚内から食糧とエネルギーを全国へ」をモットーに地域への恩返しとして描いてきた夢を実現させました。風力事業への参入を考えたのは、25年前に近隣町の幌延町に核廃棄物関連施設の建設が決定したことで、渡辺代

表の脱原発を訴える気持ちが益々強くなつたためです。20年前に独自で自己所有地の山に風況を測るポールを設置し、強い風を利用した再生可能エネルギーで地域おこしが出来ないかと模索を続け、その結果、着手してから10年後にその夢が実現しました。地球にやさしいクリーンエネルギーを宗谷をはじめ全道、全国に供給しております。現在では、道央の石狩市望来地区及び古平町管内において、約3,200kwの風力発電機を併せて6基設置すべく、今年度（令和3年12月）の営業運転に向けて現在取り組んでいるそうです。この他にも、太陽光施設や小型風力施設も各地で稼働しています。

再び酪農へ （有）ビッググリーン増幌

平成5年に設立された同社は成長を続け従業員70名の会社となり、さまざまな事業の傍ら、地元の保育所や小中学校への物品寄贈、高校への寄付を行うなど地域への貢献、活性化に努めてきました。また、同社はあります。これまで所有していることから、必要なのは牛と牛舎です。早

中併設学校は存続されています。これらは多數メディアにも紹介され、渡辺代表も多忙な日々を送っていましたが、一方で地域酪農家の減少には歯止めがかからず、このまま地域から酪農が衰退していくことへ危機感をさらに強めました。かつての自分の生業でもあり、地元の基幹産業である酪農を継続、発展させていきたいとの思いから、再び酪農業へ参入することを決意。宗谷管内の農家の手の足りないところをお手伝いする農業コントラクター事業とあわせて地域を盛り上げていくため（有）ビッググリーン増幌を設立しました。農業コントラクター事業により酪農に必要な機械、草地等はすでに所有していることから、必要なのは牛と牛舎です。早



速、自社所有の土地に250頭規模のフリーストール牛舎と育成舎、パラレルパーラーを新設しました。肝心の搾乳牛は価格高騰が続いていたため、元酪農家のノウハウを生かし



て市場で子牛を購入し搾乳牛へと育て上げました。令和元年4月から生乳生産を開始、現在は搾乳牛400頭、育成牛700頭となっています。これによって、「最北稚内の地で最先端の設備と技術で日本の食料を支える」ために、安全な食料基地としています。

中、同社は令和2年5月に8基の搾乳口ボットを備えた480頭規模の口ボット牛舎を建設しました。さらに今後5年間の目標として草地を現在の倍の2,000haに増やすことを、搾乳牛を2,000頭とすることを掲げ、同規模の搾乳口ボット牛舎をもう一舎建設することを予定しています。地域で初めての企業型大型酪農として「酪農の町」を守つていくとともに、多様化が進む酪農経営のひとつのモデルケースになればと考

ての一翼を担つていきたいと考えています。

稚内地域では家族経営が主流で、大規模集約酪農、口ボットなどの機械化は進んでいません。そのような

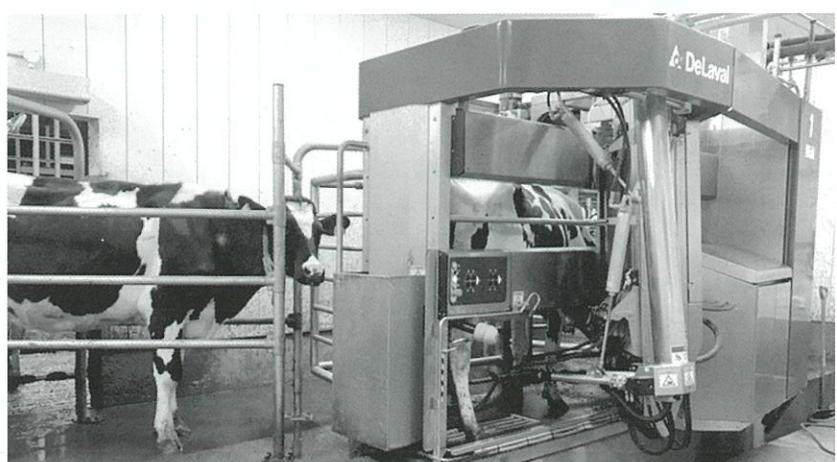
さらなる大型酪農経営へ

稚内地域では家族経営が主流で、大規模集約酪農、口ボットなどの機械化は進んでいません。そのような

えています。一方、元酪農家である渡辺代表にとつても(有)ビッググリーン増幌の経営は挑戦です。8基の搾乳口ボットの効率的な運用方法や牧場の主力を担う後継牛の自家哺育成強化など、経営安定化とさらなる発展のために模索を続けています。

雇用を拡大し、稚内市をより豊かな町に

全国最大規模のギガファームを目指す背景には、地域の雇用を拡大することで、過疎化を防ぎ豊かな町にしたいと言う渡辺代表の思いもあります。現在、外国人実習生5名を含む従業員9名（渡辺代表を含む）で作業を行っています。外国人実習生は労働力としてではなく、意思を尊重するため日常の会話を大切にしているそうです。福利厚生も充実しており、各種の保険、社宅のほか、退職金も用意しています。今後、牧場の規模拡大に伴い日本人や外国人実習生の受け入れも拡大する予定で、実習を通じて酪農技術だけでなく稚内魅力にも触れてもらい、将来町に入植してくれる人材が育つことを期待しています。従業員教育につい



ても同様で、現在は社長が陣頭に立ち指揮していますが、今後は責任者・後継者を育てながら(有)ビッググリーン増幌を末永く営農できる牧場へ成長させることが渡辺代表の目標です。

全酪連としても、今後も同社の継続的な発展のため要望に合ったサポートさせていただきます。この度は大変お忙しい中、取材へのご協力を誠にありがとうございました。